

一般雑誌における主題の変遷

大本 沙紀

現在、数多くの雑誌が刊行されており、それら雑誌が扱っている主題にも様々なものが存在している。これは雑誌の特性である「セグメント性」が大きく関係しており、雑誌は細かく限定された専門性を持つ主題を扱うようになった。様々な種類の雑誌の中でも、市販を目的に刊行されている一般雑誌は数多くの主題を扱っている。そして、近年の一般雑誌出版低迷化の流れの中で、今後一般雑誌がどのような主題を扱っていくべきかといった点に注目が集まっている。

一般雑誌の主題についての先行研究は、当時の社会情勢や歴史のとの関係性、読者との関係性、創刊誌や休刊誌との関係性など様々な研究が行われていた。しかし、2000年以降の一般雑誌の主題について調査・整理した研究は見受けられなかった。そこで、まず過去10年間に刊行された一般雑誌における主題の変遷について、調査・整理することが今後の雑誌出版の一助となるのではないかと考え研究を行った。

調査対象は過去10年間に刊行された一般雑誌とし、調査項目を雑誌タイトル、発行所、販売方法、創刊年、休刊年、主題の6項目に設定した。まず、『出版年鑑』と『雑誌新聞総かたろぐ』の2つの資料を使用し、最新10年間分の版から、2002年から2011年までに刊行された一般雑誌のデータを収集した。次に、『日本十進分類法』を参考にして、一般雑誌に主題を付与し分類した。しかし、『日本十進分類法』を参考に分類することが難しい一般雑誌群が存在した。そこで、それら一般雑誌を分類するために、「総合誌」、「ファッション誌」、「タウン誌」、「コミック」、「趣味」、「学習・受験」、「幼児・児童向け」、「成人向け」の8区分を新しく設定した。

2011年刊行中の一般雑誌2648点、2002年から2011年に休刊した一般雑誌1045点、計3693点の一般雑誌について主題の付与・整理を行った結果、466の主題に分類し、さらにそれらを18の主題区分のもとに分類した。このことから、一般雑誌が扱っている主題の多様性について明らかにすることができた。また、過去10年間に刊行された一般雑誌の全体の傾向としては、主題区分ごとの雑誌点数の変化に大きな変化は見られなかったという点が挙げられる。その他に、主題ごとに雑誌点数の増減の幅がある点や、過去10年間に新たに刊行された主題、逆に刊行されなくなった主題を持つ一般雑誌が存在していることが分かった。

本研究では、過去10年間に刊行された一般雑誌における主題の変遷を調査・整理した。今後は、今回整理した主題について、社会状況など他のデータと比較し何らかの関係性が見られるのかどうか、分析を行なっていくことが課題であると考えられる。

(指導教員 三波千穂美)